The Coolest Houses

愛車をひとり占めできる

地下室が凄い！

「家を愛することによって、街を愛するようにもなった」

DATA
所在地：東京都渋谷区
敷地面積：178.99m²
延床面積：449.94m²
設計：アーネストアーキテクツ

地下1階のリビングはアンティークテイスト。家具はすべて違う色を選んでいる。ソファからは愛車が眺められる設計だ。

東京・広尾は、通りから路地を一本入るだけで都心部とは思えない静寂に包まれる。その一角に、社員約30人で年商約40億円の広告代理店、リードを経営している猪俣（いのまた）秀行氏の住まいはある。

エントランスは白を基調としたモダンなテイスト。いたるところに鮮やかな緑の植栽があつらえられ、月ごとに、植物の種類はがらりと変わる。壁にはハワイが拠点の世界的な写真家、ピーター・リックが撮影した緑の樹木が。地下は、アンティークテイストたっぷりの空間が広がる。地上階はモダン、地下はアンティークテイストと、上階と地階はまるで別世界の雰囲気を醸しだしている。

「設計・建築は土地を購入してから3年をかけて、検討に検討を重ね、地下を深く掘るデザインをリクエストしました。約50坪の面積を効果的に活用するためです。このあたりは坂が多く、敷地にも高低差が生じます。その環境を利用したのです」

猪俣氏は3年前まで約8年間、眺望抜群の青山のタワーマンションで暮らしていたという。

「住んでいる場所に不満はなく、最初は土地を買うつもりはなかったんです。けれど、自分の条件にあった土地がたまたま見つかったんです。高台にあり、クルマが5台以上置ける広さの、そんな土地に」

その日のうちに不動産会社を訪れて、契約を交わした。建築設計は、複数の建築会社にプレゼンを依頼。

「アーネストという会社の提案が気に入りました。限られた面積をどう使うか、そのアイデアが抜群だったからです。地上の生活スペースはモダン。地下の趣味のスペースはアンティーク。そのアイデアもアーネストの女性コーディネイターとのディスカッションから生まれました。インテリアは、カラーや素材、肌触りも変えたりと、いっさい妥協していません」

地下のリビングのソファからは、愛車を眺められる。ロールス・ロイスの「ドーン」、フェラーリの「458スパイダー」、ランボルギーニの「カウンタック」、ベントレー「コンチネンタルGT」……所有するクルマは8台にも上る。駐車場というよりも、高級外国車のショールームのようだ。

「僕はクルマや船など乗り物が大好きで、乗ることはもちろん、できることならばいつも眺めていたい。その思いを家の中で実現しました」

左手にある大きなサイズの家

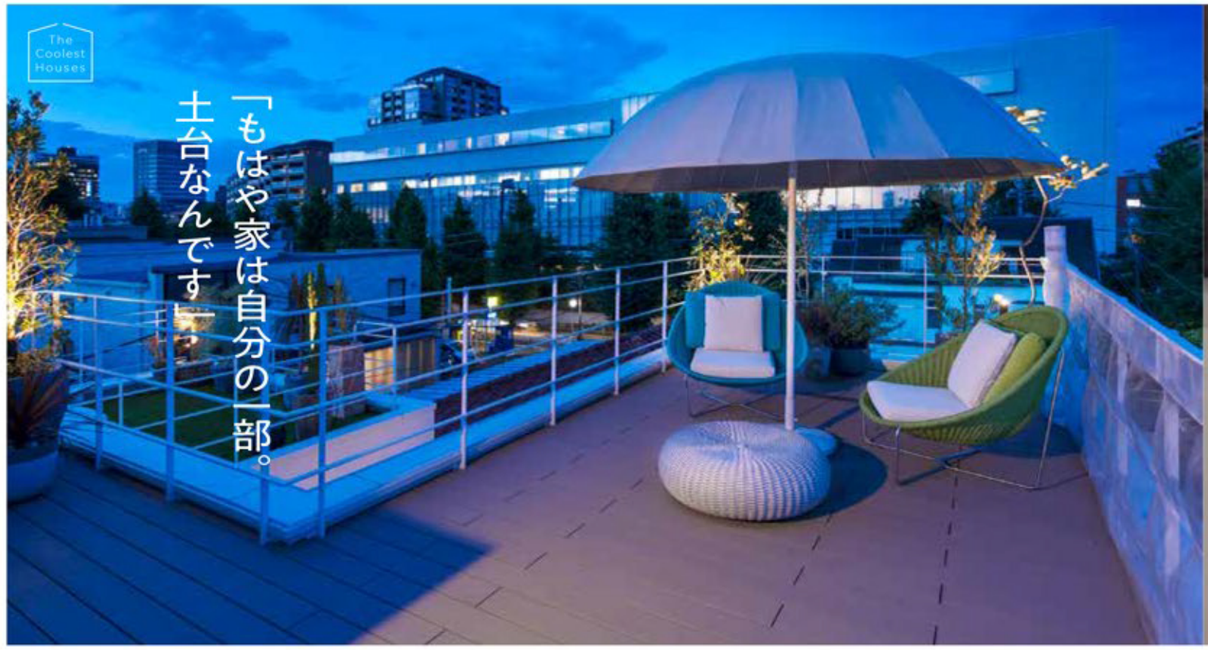
リード代表取締役社長

猪俣秀行

Hideyuki Inomata

1978年生まれ。広告代理店勤務を経て2007年にリードを創業。美容室「デュアブレ」、ハワイのガーリック・シュリンプ店、ケンズ・キッチンの立ち上げに参画。

Text＝神舘和典



「もはや家は自分の一部。土台なんです」

具の上や、階段の踊り場にもビーター・リックの写真がある。しかし、こちらは上層階とは異なり、アンティークなテイストを意識したモノクロの作品。第二次世界大戦時代のプロペラ機や、1950年代のニューヨークを切り取った写真だ。

「家具はカラーを統一せずに、すべて違う色を選びました。インテリアも、ファッションも、色彩豊かなデザインが好き。カラーに変化をつけたことも、地上と地下のテイストを変えたことも、年月を経ても飽きがこないようにするためです」

「グッドデザインで日本中に幸せの輪を広げる」。これは、猪俣さんが経営する広告代理店の企業理念だ。

「企業理念である〝グッドデザイン〟は、アートとしてのグッドではなく、実利的な意味のグッドです。仕事では、洗練されたデザイン性の強い広告よりも、集客できる広告を強く意識しています。クライアントが投じたコスト以上のものが還元される、そんな広告を目指しています。

実は、この家を依頼した設計事務所にも近い理念を感じました。正式発注前なので、他社のプレゼンはどこも手描きの図面やロ頭のみでした。でも、アーネストは模型やCGでリアルな提案をしてくれた。こちらが投じたお金以上の仕事をしよう、という熱意を感じましたね」

この家を建ててからは、帰宅が早くなった。

「夜はほとんど会食はしませんので、特別なことがない限り夜7時には帰宅しています。自分の住まいを愛すると、家があるこの街も愛するようになりました。近所で買い物をするわけでもなく、散歩もせず、人付き合いもないのに。思いもよらないことでした。かつて住んだ街には生まれなかった感情です。いつまでも、この家で暮らしたいと思っています」

1 2階には、自然光をたっぷりと取り入れたモダンテイストなベッドルーム。2 屋上からは東京の夜景をぐるりと見渡せる。渋谷方面のビル街が美しい。3 地下1階にあるゴルフシミュレーションの部屋。メーカーはGOLFZONE。モニターでフォームのチェックも行う。昼間は子どもの遊び場に。仲間が集まっての映画会もときどき行っている。4 1階部にあたる駐車スペース。右から、ロールス・ロイス「ファントム ドロップヘッド クーペ」、ロールス・ロイス「フォーニッシュ」、ベントレー「ベンテイガ」。クルマは8台所有。自宅の駐車スペースには5台収納できる。

The Coolest Houses

夢の邸宅をかなえてくれる!

“凄い”建築家図鑑

「ゲーテ」恒例の家特集ではこれまで多彩な邸宅が登場してきた。今回、その夢の邸宅を実現してみせた建築家たちをご紹介する。

敷地の広さはなんと1200m²!
ガラスに囲まれたスケルトンハウス

Photograph＝高島 慶(Nacása & Partners)

「A邸」(2006年竣工)：プールサイドのリビングルームはまるでリゾートホテル。

坂茂建築設計

坂 茂
Shigeru Ban

1957年東京都生まれ。建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー賞」をはじめ、数々の建築賞を受賞。国内外で多くの建築を手がける一方、被災地などへの支援にも力を注いでいる。

Public place designed by Ban

水田に浮かんでるような幻想的なホテル

Photograph＝平井広行

山形県の宿泊滞在複合施設で田園に囲まれたホテル「ショウナイホテル スイデンテラス」。https://suiden-terrasse.yamagata-design.com

Q. 今まで設計した住宅のなかで印象的だったものは?

空き巣対策を施した別荘。別荘は滞在していない間に空き巣が入りやすい。そのため、不在時は屋根を下ろして家の四方を囲み、空き巣が入れないようにしました。

Q. 住宅を設計する醍醐味は?

建物のみならず家具やドアノブも含め、密度の高い空間のディテールをデザインできることです。

Q. 難題だった施主からの要望は?

宮城県女川町で取り組んだ仮設住宅。野球場に190戸の仮設住宅を早く、安く、しかもコンクリートの基礎なしに建てたいという要望でした。そこで、鉄板の基礎の上に船積用のコンテナを3層積んで、3ヵ月で完成させました。

Q. 敬愛する建築家は?

ルイス・カーン。晩年、ディベロッパーの仕事ではなく、開発途上国での仕事に従事していたため。

光と風が通る六角形が重なり合う家

Photograph＝荒島 慶(Nacása & Partners)

「荒井邸」(2012年竣工)：六角形を重ねたような個性的なショールーム＆住居。

中村拓志&NAP建築設計事務所

中村拓志
Hiroshi Nakamura

1974年東京都生まれ。隈研吾建築都市設計事務所を経て、2002年に中村拓志&NAP建築設計事務所を設立。住宅以外に「ベラビスタ スパ&マリーナ 尾道」の一連の施設なども手がけている。

Q. 住宅を設計する醍醐味は?

人が眠って、食べて、寛ぐ……、生活のすべてがそこに詰まっていて、家族のあり方や生きがいにまでつながる点です。

Q. 設計を行う時のアイデアはどのように生まれますか?

一番はクライアントの話をよく聞くこと。どこに快適さを感じて、家族とどんな時間を過ごすのか話を聞いてヒントを得ます。

Public place designed by Nakamura

2本のリボンが寄り添うチャペル

広島の「ベラビスタ スパ&マリーナ 尾道」に建つ「リボンチャペル」。www.bella-vista.jp

Photograph＝藤井浩司(Nacása & Partners)

海を一望できるインフィニティプール

Photograph＝谷口ヒロシ(トロロスタジオ)

「阪本邸」(2019年竣工)：海に面したプールは長さが25mもあり、本格的に泳げる。

坂倉建築研究所

坂倉竹之助
Takenosuke Sakakura

1946年東京都生まれ。父親は日本のモダニズム建築の第一人者である、坂倉準三。「ギャラリー・サカ」や、著名人の軽井沢や湘南の別荘、ゲストハウスなど数多く手がける。

Q. 阪本邸(p58)でこだわった点は?

目の前の海を満喫できるよう建物はシンプルに。リビングは30mのロングスパン+大きなFIX窓で透明感のある空間に仕上げました。

Q. 田中邸(p70)を設計する際、難題だった点は?

由緒ある場所のため、風景を壊さない外観を心がけました。また、前面の芝生と松の木々を残しプライバシーと海への開放感を両立。

Public place designed by Sakakura

富士山と河口湖を望む美術館

主に富士山にまつわる作品の展示を行っている「河口湖美術館」。www.fkchannel.jp/kgmuse

Photograph＝河口湖美術館

施主の趣味が詰まった理想の邸宅

「猪俣邸」(2017年竣工)：南北双方からの採光によって光の満ちたリビングルームに。

アーネストアーキテクツ

板橋友也
Tomoya Itabashi

1971年神奈川県生まれ。千葉工業大学建築学科卒業。2000年に高級住宅を数多く手がけているアーネストアーキテクツに入社。第33回東京建築賞戸建住宅部門奨励賞を受賞。

Q. 猪俣邸(p78)でこだわった点は?

南北で接する道路の高低差が違うなか、最大限の駐車台数を確保したこと。また、スキップフロア構成にし、高さ方向を無駄なく活用。

Q. 敬愛する建築家は?

フランク・ロイド・ライト。近代建築の三大巨匠が設計した住宅で一番住みたいと思いました。住まい手へのリスペクトを感じます。

Public place designed by Itabashi

多様な国籍の人が集う学びの空間

東京国際大学の第一キャンパス図書館にある英語学習に特化した「English PLAZA」のデザインを監修。グループや個人など各々の学びに寄り添う空間に。www.tiu.ac.jp

施主の夢だった「美術館に暮らす」家

Photograph＝西川公朗

「A邸」(2016年竣工)：モダンでミニマルなデザインの邸宅は、美術館のような佇まい。

APOLLO 一級建築士事務所

黒崎 敏
Satoshi Kurosaki

1970年石川県生まれ。明治大学理工学部卒業。大手メーカーや設計事務所を経て、2000年に現事務所を設立した。日本のみならず海外でも活躍し、設計した建物は19年間で200棟以上。

Q. A邸(p84)でこだわった点は?

家のコンセプトは「美術館に暮らす」。それを実現するために、ダイナミックな格天井を施した室内天井高は5mを超えています。

Q. 設計を行う時のアイデアはどのように生まれますか?

日々の生活、人々との対話、旅の風景、歴史の探究、未来の想像などから、インスピレーションの源泉が生まれます。

Public place designed by Kurosaki

台東区に現れたモダンなゲストハウス

2011年にグッドデザイン賞を受賞した「カンガルーホテル」。http://kangaroohotel.jp

Photograph＝西川公朗